

# Bluff Archives Monthly News

2019年4月

発行 NPO 法人横浜山手アーカイブス

## ジョージ・シドモア George H Scidmore

ジョージ・シドモア氏（1854～1922年）は、アイオワ州生まれ、横浜においては1881年に米国領事館書記官、1913年に米国総領事に就任した。ブラフディレクトリによれば、ジョージは1883年に207番、1920年から1922年まで246番に掲載されている。最晩年を山手で暮らしたことになる。1922年11月28日東京朝日新聞夕刊には、「横濱駐在米國總領事逝去 横濱駐在米國總領事ジョージ・ホーサン・シドモア（68）氏は一昨年来腐骨症に悩み自宅で療養中であつたが昨26日重態に陥り27日朝遂に逝去した」と訃報が掲載された。

ジョージの暮らした246番は、外国人墓地正門の正面に位置し、駐屯英国軍撤退後に地番が付けられた。ゲート座、米国海軍病院などに近接し、山手本通りに面する場所である。

神奈川県立公文書館に保管されている「永代借地権に関する資料」によると、大正14（1925）年11月26日、246番地の永代借地権210坪8合8勺は、6,115円52銭で妹のエリザによって横浜市に売買され、抹消されている。兄の亡き後、妹が相続したのであろうか。抹消時、エリザは東京市麹町区八重洲町1丁目1番地、フレザー同族会社内に住所を置き、川上豊彦を代理人としている。

彼の妹エリザ・R・シドモア（1856～1928年）は、地学者、写真家、紀行文学者として活躍した。兄ジョージが横浜に居た縁で、妹エリザも度々日本に来日し、その日々を『Jinrikisya Days in Japan』（邦題：日本人力車旅情）（初版1891年）として記した。1912年、東京からワシントンへ友好・親善のため桜の苗木（ソメイヨシノ）3千本が贈られた。その桜はポトマック河畔一帯に植えられ、世界的な桜の名所になったが、桜の植樹にあたり、大きく貢献したのがエリザである。1928年、スイスジュネーブで亡くなった彼女の遺骨は、1929年11月30日に外国人墓地に眠る母と兄の墓所に納骨された。



ジョージ・シドモア 出典：米国議会図書館、版画および写真部門、ハリスおよびユーイングによる写真、[LC-DIG-hec-16712]

ポトマック河畔の桜は1991年に里帰りし、「シドモア桜の会」によって、墓碑の傍に植えられた。さらにこの里帰り桜から接ぎ木により苗木が作られ、苗木から育った桜が、現在谷戸橋のたもとで、毎年見事な花を咲かせている。

2019年3月には、ワシントン州にある米国国務省日本語研修所にその苗木が植えられた。長年「シドモア桜の会」を牽引してきたメンバーの功績と現所長カンロイ氏、研修所隣地「此のみち」オーナー梅澤氏などの尽力である。

現在4月5日には「シドモア桜の会」によって墓前祭が、エリザの命日11月3日には有志によるお墓参りが続けられている。(S)

<主な参考文献>

『横浜外国人墓地に眠る人々』有隣堂 2012年

谷戸橋の麓にあるシドモア桜の碑文

朝日新聞記事データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」

※ジョージの写真について NPO 法人フィールド堀内保彦氏の調査、ご教示によることを記し、御礼申し上げます。